

23 さやかさんの おにぎりづくり

ともだちと あそんだ かえりみち、さやかさんは
あにの まさるくんと いっしょに なりました。

「ぼく、おなか ペこペこ。おばあちゃんの おにぎり
が まってるぞ。」

さやかさんも、おばあちゃんの おにぎりが だいす
きです。

「ただいま！」

いきおいよく げんかんの とを あけました。

「あれ、おばあちゃん どうしたの。」

おばあちゃんの みぎてに ほうた
いが まかれて います。

「にわで ころんで くじいたの。」

びょういんに いったら、

みつかも すれば

なおりますって。

しんぱいは いらないよ。」

(よかったな。)



と、さやかさんは おもいました。

「でも、おとうさんと おかあさんの かえりは、^{いち}一じ
すぎだし、おにぎりが にぎれなくて、こまっただの。
ふたりとも、おなかが すいてるでしよう？」

「ぼく、おにぎり かって くるよ。」

おもいついたように、

まさるくんが いいました。

「でも、おにいちゃん、

わたし つくって みたいな。

うまく できないかも

しれないけど。」

「じゃあ、ふたりで

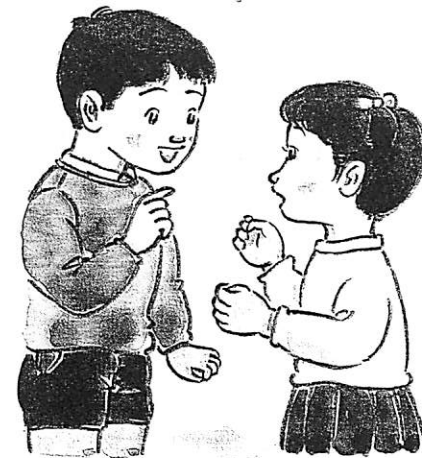
つくって みる？」

にっこりと おばあちゃんが

いいました。

おにぎりづくりの

せんせいは、おばあちゃん
です。ぬらした ちいさな
てに、ちよっぴり しおを
つけて にぎります。



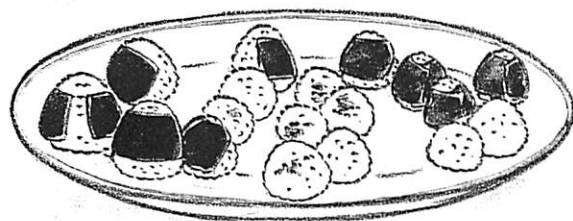
「もっと いろんな ものを いれようよ。」
と、まさるくん。うめぼし、さけ、かつおぶし、それに、
チーズ^{ちいず}まで いれて みました。

^{おお}大きさも かたちも いろいろな
おにぎりが ^{じゅうはち}十八こも できました。

「やった! おとうさんと

おかあさんの ぶんもだよ。」

そのとき、くるまの とまる おとが
しました。おとうさんと おかあさんが、
かえって きたのです。



おかあさんは、^{てえぶる}テーブルの おにぎりを みて、びっ
くりして ききました。

「おばあちゃん、その てで にぎったの?」

「いや、さやかと まさるが、つくって くれたのよ。」

わたしたちにも たべさせたいって。」

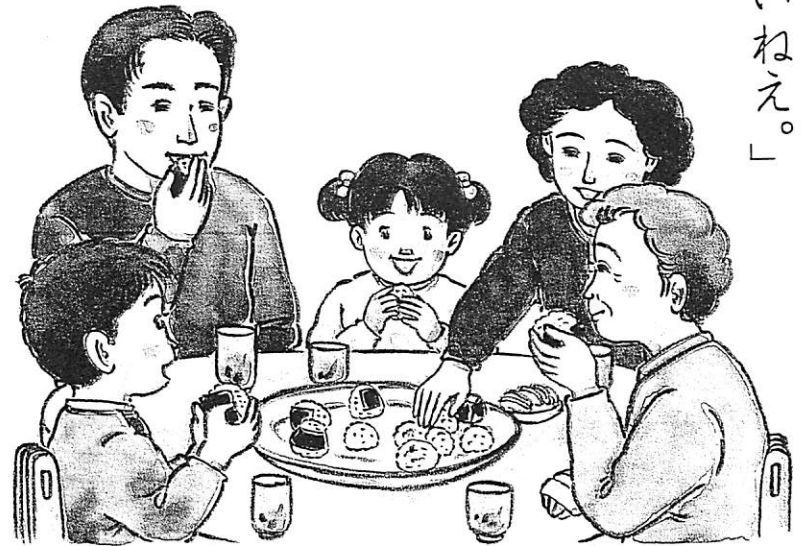
おばあちゃんが、にこにこしながら いいました。

「まあ おいしそう。おかあさん うれしいな。」

「さやかと まさるの きもちが、おにぎりに つまっ
て いるんだね。」

おとうさんも たのしそうです。

「チーズも なかなか うまいねえ。」
みんなに ほめられて、
さやかさんは ふしぎに
おもいました。
(おにぎりって、ほんとうに
きもちを こめれば おい
しく なるんだなあ。)



24 かくれんぼ

まりこさんは、かくれんぼが だいすきです。きょう
も、こうえんで、ともだちと かくれんぼを たのしそ
うに して います。おにに なった ひろしくんが、
「もう いいかい。」
と、^{おお}大きな こえで いった います。みんなは、
「まあただよ。」
と、こたえながら、かくれる ところを いそいで

23 さやかさんの おにぎりづくり

4-② 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。
(家族愛)

① 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

核家族が多くなった現代において家族を結ぶ絆は、昔に比べ希薄になりつつある。しかし、自分が困って悩んだときや病気になったときなど、家族のありがたさが身にしみて感じられることに変わりはない。

そこでお互いの仕事や立場を考え、家族の一員として自分の立場を認識し、家族のために協力することはますます必要となってくる。お互いに思いやり、感謝の気持ちをもち合うことが大切なのである。

ここでは、人間の幸せの基盤は家庭であることを再認識させ、家族への親愛の情や感謝の念を育てたい。

〈子どもの実態について〉

多くの家庭において、「子どもを中心」にした家庭生活が営まれており、その結果として、子どもたちは「世話をしてもらおうことがあたりまえ」になりがちである。

また、この期の子どもは、大人がやっている

ことは何でもまねてやりたがる傾向でもあり、ベットの世話や新聞とり等をお手伝いとして取り組んでいる子も多い。

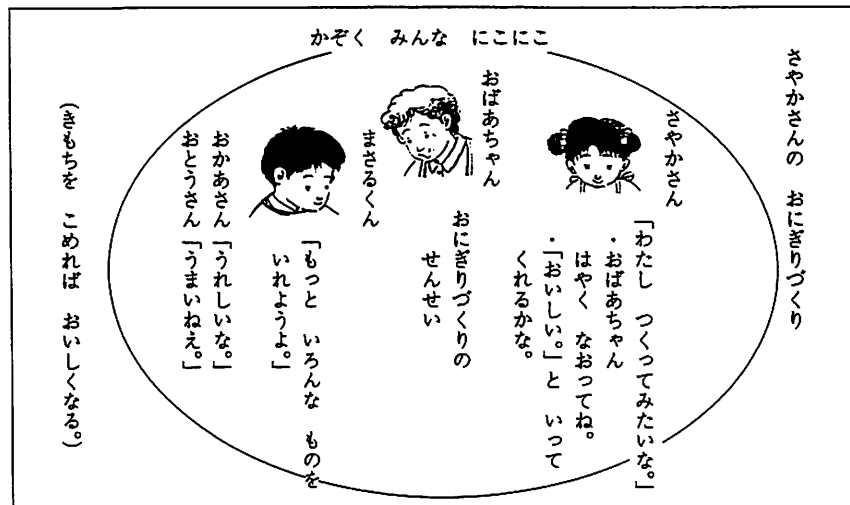
そこでいつも世話をしてくれている家族のことを思い起こし、感謝の気持ちをもって自分も家族の一員として助け合おうとする心情を育て、実践へとつなげたい。

〈資料について〉

本資料は、さやかさんと兄のまさるくんががをした祖母のかわりに、おにぎりづくりに挑戦する話である。いつもは、母親代わりの祖母に頼りきりの二人だが、おにぎりづくりを通して、家族の役に立つことや家族が喜ぶことをすることの楽しさを実感する。さやかさんに共感することによって進んで家の手伝いをしようとする態度を養いたい。

②ねらい

家族の愛情を感じ、家族のために自分でできるお手伝いを進んでしようとする態度を養う。



□板書

③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) お手伝いをした経験について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お手伝いをして喜んでもらったことはありませんか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ せんたくものをたたんでいる。 ・ おちゃわんを運んでいる。 <p>(2) 資料「さやかさんのおにぎりづくり」を読んで、話し合う。</p> <p>① おばあさんのけがを知ったとき、さやかさんはどう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おばあちゃんのけがが軽くてよかったなあ。早く治るといいな。 ・ おなかですいたな。でも、おばあちゃんはおにぎり作りは無理だろうな。 ・ 今日はおばあちゃんにおにぎりを作ってあげよう。 <p>② おにぎりを作りながら、さやかさんはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とっても楽しいな。おいしく作れたらいいな。 ・ いろんな味のおにぎりができたらいいな。 ・ 「おいしい。」と言ってくれるかな。 ・ お父さんやお母さんは喜んでくれるだろう。 <p>③ ほめられてどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そんなにおいしかったの。作ってよかったよ。 ・ 心をこめて作ったかいがあったなあ。 ・ またいっぱい作ってあげよう。 ・ みんなにほめてもらって、うれしいなあ。 ・ 喜んでもらってうれしいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。 ・ 日常、祖母にどのように世話になっているか、さやかたちが祖母にどのように感謝しているかも合わせて考えられるようにする。 ・ 家族でいっしょに物を作る楽しさや、両親や祖母のためにがんばろうとする気持ちをとらえることができるようにしたい。 ・ 子どものやさしさが両親や祖父母にとっては何よりもうれしいものであることを助言する。
<p>(3) 家族の人たちの心遣いなどについて話し合い、自分はこれからどうしたらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ うちの人たちにやさしくしてもらったり、自分がしてあげたりしたことはありませんか。これからどんな子になりたいですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病気のとき、みんなが心配してくれた。 ・ 妹が泣かないように、妹が喜ぶようにいっしょけんめい世話をした。 ・ 心配をかけないようにする。 <p>(4) 教師の話を書く。</p> <p>〔 家族のためによく努力をしている子どもの事例を紹介〕する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族がどんなことをしてくれるかを振り返り、家族のことを思って手伝うことの気持ちよさについて感得できるようにしたい。 ・ 十分に時間をとり、行為と共にそのときの気持ちを発表できるようにする。 ・ 保護者会などで、家庭における様子を聞いておき、家族のためによく努力をしている子どもの事例を紹介する。保護者からの手紙として紹介してもよい。